

皆様、今晚は。

只今、杉浦先生よりご紹介いただきました中垣信夫と申します。

今から50年前、私の髪も黒々としていた時、まだ杉浦先生も30歳を若干過ぎたころ、先生の初めてのスタッフとして、それから10年もの長い間、私の将来生きるべき道を教えていただきました。

その間ドイツの造形大学にも先生に同行いたしました。

先生はその学校で世界の色々な国の人たちを教えていました。

私はドイツの先生から教えられていました。

私も多分先生もその時、西欧と私たち日本との生活・文化・思考方法等、あらゆる差に大きなショックを受けました。

その学校は近代デザイン運動の流れを汲む、世界で共有出来るデザインの思想を発信する学校です。

その時の体験で先生は、近代化されたデザイン運動は私たちの大切なアジアの文化を喪失することだと気付かれたと思います。

ドイツから帰国後、先生は次第にアジアの一員であることを強く意識されるようになりました。

ある時、先生は僕に「中垣君、僕はアジアの文化に眼を向けるよ」と私に宣言されたのです。

近代化された西欧物質文明の矛盾を解決する鍵は、東洋思想の中にその答が有ることに気付かれたのだと思います。

その時点から他の多くのデザイナーとは違った、アジアの偉大な思想家になられたのだと思っています。

私は先生程、努力する人を知りません。

その努力で、少しでもアジアの人々のために貢献出来たのなら、私達の仲間も大変嬉しいことです。

私達はもう年寄ですが、次の時代を引き受ける人たちが、先生が発信されたアジアの文化を育てて行って欲しいと願っています。

本日はこの賞を下さった Hong Kong Design Center の方々、有り難うございました。

また先生を支えて下さった、アジアの多くの皆様、有り難うございました。

本日残念ながら先生に来ていただくことは出来ませんでした。

これからも、先生には末長く皆様と交流されることを願ってやみません。

有り難うございました。